

講義名	観光コミュニケーションB/観光英語B			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

グローバル社会の進展に伴い、海外へ旅行する日本人、そして、海外から来日する外国人観光客の数は増加の一途をたどっている。また、日本における観光産業の充実を図るための諸施策も大きな課題となっている。特に、旅行・観光・ホテル・レストランサービス等の業種にあつては、英語の運用能力だけではなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロの養成が急務であり、このような能力をもつ人材への高い需要がある。本コースでは、ツーリズムやホスピタリティビジネスなどに興味のある受講生が明確な目的を持ち、ツーリズムのプロとして必要な英語を学びながら学べる授業を講義する。「英語を学ぶ」というよりも、「英語で「観光業務を学ぶ」という姿勢で取り組んで欲しい。上記は「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに貢献するものである。

到達目標

(1) 「旅行業」「航空業」「ホテル業」といった観光産業に必要な英語表現を習得できるようになる。
(2) 観光コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング・リーディングのスキルに加えて、観光産業の基本的な知識を得られるようになる。
(3) クラスメイトとのロールプレイ演習により、実践的な英語コミュニケーション力を養えるようになる。
(4) 演習を通じて、文化の多様性を理解し、受容できる異文化コミュニケーション力を養えるようになる。
上記の到達目標は、海外の顧客満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を培い、観光英語検定の受験に必要な知識が得られることから、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに達成に役立つ。

提出課題

(1) 観光英語検定2級の単語集から、毎回1ユニットに解答し、Google formから提出する。なお、課題には採点をとまらぬ。
(2) テキストの内容に基づく演習問題からなるワークシートを提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストおよび提出課題の解説をパワーポイントを使って行う。

評価の基準

(1) 課題 (50%)
(2) クイズ (20%)
(3) 最終試験 (30%)
*コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取り組まなかった項目がある場合は不合格となる。また、授業中の態度が著しく悪い、教科書を持って来ないなどの行為が見られた場合は、大幅な減点となるので留意すること。教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。

履修にあたっての注意・助言他

(1) 前掲のように、コースの評価は上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも取り組まなかった項目がある場合は不合格となる。
(2) 特別に認められる理由以外の15分以上の遅刻は欠席となる。コースの3分の1にあたる5回以上の授業を欠席すると定期試験の受験資格を失い単位取得できなくなる。3回の遅刻で欠席1回となる。
(3) 教科書は当然、購入しているという前提で授業を実施する。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。
(4) 課題はWord形式で提出すること。スマホからの写真やテキストでの提出物は受理しない。
(5) 登壇、授業開始直前の約10分前を使ってクイズを実施するので遅刻しないこと。欠席した場合は追試は実施しない。
(6) 教科書は解答が書かれた他人からもらったものは使用不可とする。
(7) その他、授業に関する詳細については第1回目の講義資料で説明するので、必ず出席すること。
*提出課題を含むすべての連絡事項はRyuka Portalのキャンパスクロスを通じて行うので、必ず確認すること。

教科書

.English for Tourism Professionals.	Reiko Fujita	Cengage Learning ELT	2,400	9784863123564
-------------------------------------	--------------	----------------------	-------	---------------

参考図書

その他

テキストの内容に準拠した担当者作成のワークシート等、適宜、Ryuka Portalのキャンパスクロスを通じて配布する。

授業計画

回	授業計画
1	Course Guidance, Unit 8 Working at the Boarding Gate(1): Vocabulary & Listening Exercise
2	Unit 8 Working at the Boarding Gate (2): Reading & Pair Work
3	Unit 9 Offering In-flight Services (1): Vocabulary & Listening Exercise
4	Unit 9 Offering In-flight Services (2): Reading & Pair Work
5	Unit 10 Giving CIO Information(1): Vocabulary & Listening Exercise
6	Unit 10 Giving CIO Information (2): Reading & Pair Work
7	Unit 11 Taking a Room Reservation(1): Vocabulary & Listening Exercise
8	Unit 11 Taking a Room Reservation (2): Reading & Pair Work
9	Unit 12 Welcoming Guests (1): Vocabulary & Listening Exercise
10	Unit 12 Welcoming Guests (2): Reading & Pair Work
11	Unit 13 Helping Guests (1): Vocabulary & Listening Exercise
12	Unit 13 Helping Guests (2): Reading & Pair Work
13	Unit 14 Dealing with Complaints (1): Vocabulary & Listening Exercise
14	Unit 14 Dealing with Complaints (2): Reading & Pair Work
15	Unit 15 Sending Guests Off

*授業の進捗状況により、内容を調整する可能性がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

授業内容に応じて、上記を適宜採用する。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：観光英語検定の課題やテキストの補助教材として講師が作成したワークシート、教科書の演習問題に取り組み、（2時間）
復習：その日の学習内容の復習（テキスト内容のリスニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む）およびクイズで間違えた箇所の確認、等）（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

このクラスは以下の点において、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てる」という観光学科ディプロマポリシーに沿ったものである。
(1) 海外の顧客満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を培うことができる。また、授業では観光英語検定の受験に必要な知識が得られるため、観光業界に就職した際、それを活かすことができる。
(2) ホテルやブライダル関連企業で就業する際に必要な英語コミュニケーション能力だけでなく、特にホテル業界で仕事を遂行するうえで必須の知識も習得できるため、「ホテル業」といった観光関連産業や地域の観光団体に就職した際にも実践することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業に関する質問は随時受け、授業中あるいはキャンパスクロスを通じて回答する。受講生からの提出物を添削し、フィードバックを行う。授業でペアワーク等、実践的な授業を実施する。

実務経験の有無及び活用

備考

教科書を購入しなければ課題を提出できないので、履修登録後、すみやかに購入手続きをすること。前掲のように、教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。授業に関する連絡事項はすべてキャンパスクロスを通じて行う。